

保健師養成課程における埼玉県保健所実習の標準的カリキュラム (改訂版)

1 趣旨

本カリキュラムは、県民に質の高い公衆衛生看護を提供できる保健師を養成するため、埼玉県保健所において実習生を受け入れるに当たり、提供する実習内容を標準化するための基本的事項を示したものであり、平成27年度の実習から適応する。

2 実習の概要

(1) 目的

実習生が地域で生活している人々や環境に対する理解を深めるとともに、保健師が行う公衆衛生看護活動の基本的な知識・技術・態度について修得する。

(2) 対象

県内看護系大学において、保健師課程を選択した4年次の学生

(3) 受入れ保健所

埼玉県保健所

(4) 実習受入れ日数

6日間

(5) 実習受入れ人数及び実習指導体制

同時期の受入れは2～3名とし、原則、実習生1名につき全実習期間を通して1名の保健師が実習指導者として担当し、家庭訪問や保健事業等の調整を行う。

(6) 実習プログラムの調整

保健所実習担当者は実習指導者と協力して、実習プログラムに関する調整等を行うものとする。

2 実習生の履修条件

(1) 看護師教育課程の各領域の臨地実習を体験し、それぞれの学習目標に到達していること。

(2) 公衆衛生看護関連科目を履修し、それぞれの学習目標に到達していること。

(3) 地区診断、健康教育、家庭訪問、健康相談の展開技術を演習等により修得していること。

(4) 地域保健活動に従事する保健師の役割に高い関心を寄せていること。

- (5) 大学の指導員は、実習先の保健所に赴き、学生指導や保健所との調整を行うものとする。

3 保健所実習により修得する事項

- (1) 実習を通して、自分の行動を総合的に評価し、保健活動の質を向上するための方策を考えることができる。
- (2) 地域に顕在している健康課題を個別事例や地区診断を通して理解するとともに、潜在化している健康課題を予測することができる。
- (3) 地域の健康課題の解決のために、社会資源の開発と施策化により地域ケアシステムが構築され、維持・発展されていることを学ぶ。
- (4) 地域で生活する人々の主体性と地域の文化や価値観を尊重し、地域ケアシステムの中で個人や家族、集団が課題解決をしていること学ぶ。
- (5) 健康危機を予測し、組織的な健康危機の回避や解決について学ぶ。

4 基本的あり方と実習目標

受入れに当たっては、以下の実習目標を基本的あり方とし、実習先の保健所と大学の協議により、保健所の実情にあった受け入れを行うものとする。

実習目標	行動目標	実 習 内 容
地区診断ができる。	○管内及び保健所業務に関する地区診断に必要な情報を収集をし、地域の特徴を理解することができる。 ○地区診断から顕在的健康課題を明らかにし、潜在化している健康課題を推測できる。 ○健康課題解決に向けた支援方法について理解できる。	○保健所業務に関する情報（精神保健福祉、結核・感染症、難病等在宅療養等）を収集し、現状の分析（地区診断）を行う。 ○地域の文化様式や価値観等のアセスメントし、多面的多角的な視点で情報分析する。 ○顕在化した健康課題の背景や関連する要因、地域の課題解決力、優先順位を検討する。 ○推測した潜在化している課題について、要因、地域の課題解決力、優先順位を検討する。
保健所における公衆衛生看護活動の支援	○保健所の行う公衆衛生看護活動に関する法的根拠や法施行業務に	○精神保健福祉法、感染症法等の理解を深め、適切な支援の方法について学ぶ。 ○対象や状況に合わせた支援手法の選択につ

方法について理解する。	ついて理解する。 ○個人・家族・集団に対して健康課題解決のための手法が選択できる。	いて学ぶ。 ○手法を組み合わせた継続的支援について理解する。 ○健康問題を抱えている個人・家族が自らの健康を理解し、自己決定するための支援であることを理解する。 ○カンファレンスを行い、アセスメント及び支援計画について検討する。
【家庭訪問】	○家庭訪問に同行し、指導のもと必要な情報を聴取できる。 ○実習期間中、1～2回以上の家庭訪問を行う。 (病棟訪問、施設訪問等も含む)	○事前情報から対象者をアセスメントし、家庭訪問の目的、支援目標、訪問による把握事項、保健指導事項について学ぶ。 ○家庭訪問に同行し指導のもと家族を含め必要事項を聴取する。 ○個人・家族が主体的に問題解決ができるような、適切な支援（保健指導等）について学ぶ。 ○対象者のアセスメント、支援目標、支援計画を明らかにし、家庭訪問の記録を作成する。 ○訪問対象者の健康について家族や地域社会との関連で理解できる。
【健康相談】	○初回相談では、同席し相談技術について学ぶ。 ○保健所の健康相談に参加し、意義や目的が理解できる。	○初回相談については同席し、相談の技術を学ぶ。 ○相談終了後は相談記録を作成し、相談主訴（相談者のニーズ・ディマンド）、家族関係などから気になるところを捉えられる。 ○法的根拠に準拠した支援計画の立案を学ぶ。 ○相談概要から緊急性、疾病性の判断をする。 ○結核相談やH I V相談に同席し、問診の聴取や指導の実際について学ぶ。 ○相談来所者の生活背景や課題を整理する。 ○健康教育については、原則市町村保健セン

【健康教育】	○対象にあった健康教育の方法について学ぶ	ターで行う。 ○保健所で行われる健康教育について理解する。 ○保健所で行う健康教育（感染症の出前講座等）で、事前に計画されている場合は大学と協議し健康教育の一部を担当し実際に学ぶ。
【関係機関の調整・連携】	○保健所が実施する診査会に出席し、その役割や機能について学ぶ。 ○保健所が主催する会議等へ参加し、保健所の調整機能や連携について学ぶ。 ○他機関が主催する会議等へ参加し、関係機関の連携について学ぶ。	○感染症診査会に出席し、その役割について学ぶ。 ○診査会に適切な情報提供と診査会意見を踏まえた支援計画について学ぶ。 ○感染症の治療や接触者健診の法的根拠、方法、対象範囲について学ぶ。 ○保健所が主催する会議等の目的や地域の課題を理解する。 ○会議の実施要綱・要領を理解し、会議資料等から地域の課題について考える。 ○広域視点に立った調整機能について理解できる。 ○関係機関が主催する会議等の目的や地域の課題を理解する。 ○会議の実施要綱・要領を理解し、会議資料等から地域の課題について考える。
【地区組織・セルフヘルプグループ（SHG）育成支援】	○地域の社会資源としての地区組織やSHGの種類や役割を知り、育成意義の理解と育成支援について理解する。 ○地域の保健・福祉に関する社会資源を理解する。	○地域の地区組織やSHG育成の過程を学ぶ。 ○地域の健康課題と地区組織やSHG育成について関連づけて理解する。 ○地区組織やSHG活動に参加し、活動の実際を知る。 ○地区組織やSHG活動支援における保健師の役割を理解する。 ○地域の保健・福祉に関する社会資源を知る。 ○設立の経過や地域で担っている役割について

健康危機管理に関する対応について学ぶ。	○健康危機管理について精神や感染症の事例から対応方法を学ぶ。	て理解する。 ○地域の社会資源で行っている事業等に参加し、直接利用者と接する機会を持つ。 ○利用者のニーズを理解し、地域の健康課題について考える。
公衆衛生看護職として、自分の行動を総合的に評価し、資質向上のため方法を考える。	○自分の行動を振り返り評価ができる。 ○予防的な支援を常に重視して行動できる。 ○様々な人とのコミュニケーションができる。	○感染症の事例や精神保健福祉の事例を用いて健康危機管理発生時のシミュレーションを行い、対応方法について学ぶ。 ○健康危機管理発生時の優先順位を理解し、支援対策を体系的について学ぶ。 ○記録や報告、カンファレンスを通して、法的根拠や支援方法について常に考える。 ○PDCAサイクルに沿った活動を考える事ができる。 ○実習を通して、報告・連絡・相談ができる。

5 保健所実習プログラム

- (1) 実習プログラムは保健所業務の実態に合わせて作成する。
- (2) 実習プログラムに関する必要な調整は、保健所実習担当者及び実習指導者が、指導教員を通して臨機応変に行うこと。

(別紙)

【実習プログラム例】

	午 前	午 後
1 日 目	オリエンテーション	情報収集による地区診断の報告
2 日 目	家庭訪問（同行訪問）	感染症診査会 プレ診査
3 日 目	地区診断 家庭訪問記録 カンファレンス	保健所健康相談等への参加
4 日 目	家庭訪問（同行訪問）	保健所主催会議等への参加
5 日 目	地域の地区組織やS H G 又は社会資源への訪問	健康危機管理シミュレーション
6 日 目	個別健康相談同席 又は家庭訪問	保健情報・家庭訪問・地域活動 等からの地区診断について報告・ 及び反省会